

2022年度 第3回 公立大学法人埼玉県立大学教育研究審議会 議事録

1 承認日

2022年8月1日(月)

2 開催方法

WEB会議

3 参加者

星議長、阿部委員、伊藤委員、鈴木(幸)委員、金村委員、朝日委員、林委員、濱口委員、田中委員、鈴木(康)委員、山崎委員、川俣委員、河村委員、高橋委員、柳澤委員

オブザーバー参加：延原情報センター所長、田口地域産学連携センター所長

4 事務局

福田副局長、森調整幹兼総務担当部長、片岡財務担当部長、山崎施設管理担当部長、関口教務・入試担当部長、関根研究・地域産学連携担当部長、山口企画・情報担当部長

5 議事概要

【議事録確認】

議長から前回の議事録が提示され、内容について確認された。

【報告事項】

(1) 2021年度累積GPAの結果報告について

資料に基づき、朝日高等教育開発センター長から報告された。

- GPAについて学生の学習到達度を表す指標としてだけでなく、大学としてどのように活用するかを高等教育開発センターで検討いただきたい。GPAの活用方法が見えてくると良い。
- GPAを活用するにあたって、成績評価の厳格化についても議論する必要がある。それも併せて検討いただきたい。

【その他事項】

(1) 埼玉県立大学FACTBOOKについて

資料に基づき、山口企画・情報担当部長から説明された。

(2) 2022 年度埼玉県立大学学生調査（在学生）について

資料に基づき、山口企画・情報担当部長から説明された。

- 新規追加されたダイバーシティの設問で、多くの学生が LGBTQ について学びたいと回答している。ダイバーシティ委員会で取り組みを行うことや、教育に取り入れていく必要があるのではないか。
⇒ ダイバーシティ委員会では、ダイバーシティという言葉を知っている割合が想定より少ないという評価をした。一層の啓発を行っていく予定である。LGBTQ については、今年から学生を主体としたチームを発足させたこともあり、ニーズに合った取り組みを行っているところである。
- ダイバーシティの回答選択肢“障がい者との共生”について、回答者に障がいがないことを前提としているように捉えられるので、より良い表現を使っていたきたい。
- 結果の要因として、LGBTQ がマスコミの報道等により近年よく聞く言葉となったことも考えられる。最近の学生は授業中に LGBTQ をカミングアウトするなど、教員世代と LGBTQ に関する意識が異なる部分もある。そのことを踏まえて取り組みを進めていただきたい。
- 外国人・異文化との交流を望む回答も多かった。現在はコロナ禍で難しい部分もあるが、今後、留学生の受け入れ等について、大学としての仕組みを検討していく必要がある。
- 本調査結果は、IR データベースに学科・専攻を含んだデータとして蓄積されるので、学科・専攻においてぜひ利用いただきたい。

以 上